

湯布院の宿

情緒溢れる一軒家の温泉旅館に宿泊した。枕が変わったせいか朝早く目が覚めてしまった。周りはまだ薄暗く街灯が明るく感じられた。空を見上げると薄曇りの天候だった。ふと周りを見渡すとそこには巨大な山が迫っていた。かの有名な由布岳（火山・標高 1584m）であった。

10 年ほど前にもここ湯布院を訪ねたことがある。雲ひとつない五月晴れの見事な天気であったことを覚えている。昼食に入った店は「食後に温泉を」と書かれていたので入ってみた。殺風景ながらも露天風呂は身も心も癒してくれる。さらに目を外に向けると雄大な由布岳の全景がまるで一幅の絵画の如く迫っていた。それは富士山の形にも似ていた。その為か別名「豊後富士」として親しまれているとか。



街を散策しながら感じたことは、大型施設のホテル・旅館が無いことだ。殆どの宿泊施設は民宿を少し大きくしたような建物で、情緒溢れる温泉街を見事に演出していた。日本には数数えきれないほど多くの温泉がある。その多くの有名温泉地には男性が好む華やかなネオン輝く歓楽街が付きものだ。しかし湯布院にはそうしたものは無かった。土産物売り場は当然として、様々な小物類から着物や身につけるファッションを中心とする、女性本位に造られた街並みのように思えた。今の時代何事も女性からボイコットされれば、もう生きていけないのだ。

撮影 2012 年冬

